

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 1日現在

機関番号：82702

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009年度～2011年度

課題番号：21720041

研究課題名（和文）中世鎌倉文化圏における絵画制作と外来文化受容に関する研究

研究課題名（英文）On the Reception of the culture in Song and Yuan dynasties and the Creation of pictures in Medieval Kamakura

研究代表者 梅沢 恵（UMEZAWA MEGUMI）

神奈川県立歴史博物館・学芸員

研究者番号：60415966

## 研究成果の概要（和文）：

本研究は13～14世紀の鎌倉文化圏においてどのような絵画が制作され、流通したか、また東国における宋・元代絵画の受容の諸相を明らかにしようとするものである。羅漢図、頂相、縁起絵という3つのテーマを中心に基礎的な情報を収集し、作品調査、研究を行った。とくに円覚寺所蔵の五百羅漢図（元時代・室町時代）は鎌倉における中国文化の受容を考える上で、重要な作品であり、他の羅漢図との比較、羅漢に紛れて描かれた人物像についても頂相などとの関連を考察した。

## 研究成果の概要（英文）

This research was clarified about what kind of pictures existed in the Kamakura in the 13-14th century. And this research also considered the Reception of the culture in Song and Yuan dynasties and the creation of pictures in Medieval Kamakura, especially, about figures in the "pictures of five-hundred arhats" of *Engaku-ji* and about the portrait of the Zen teachers.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,800,000	1,140,000	4,940,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：美術史 外来文化受容 五百羅漢図 頂相

## 1. 研究開始当初の背景

鎌倉から南北朝時代の絵画における外来美術の受容、いわゆる「宋風」というテーマは美術史学にとって重要な問題である。従来、鎌倉における「宋風」については主に彫刻研究者が主導しており、土紋装飾や仏画からの引用とみられるくつろいだ姿形の菩薩像、法衣垂下像など13世紀末から急速に「宋風」を誇張した仏像が制作され「鎌倉派仏所」の存

在も想定されている。絵画では鎌倉絵巻などにみられる過度に強調された水墨技法について鎌倉固有の様式が要請され、独自の展開を遂げた時代の産物であるとの指摘がある。本研究は研究代表者が平成18～19年度科学研究費助成研究若手研究（B）「宋画を規範とする十六羅漢図の図像受容と展開に関する研究」において、日本で制作された羅漢図における舶載羅漢図の図像の受容の問題について

考察したテーマと深く関係する。(梅沢恵「異国の仏を請来すること」『宋元仏画』(展覧会図録)、神奈川県立歴史博物館、2007)本研究では、引き続き鎌倉・円覚寺所蔵の五百羅漢図(元時代)についての調査研究を継続するとともに中世鎌倉文化圏においてどのような絵画が存在し、流通していたのか情報を収集するところから開始した。

## 2. 研究の目的

本研究は鎌倉幕府が開かれてから古河に鎌倉府が移転するまでの13世紀後半～14世紀を中心に、鎌倉文化圏における絵画の制作および流通、宋・元時代絵画の受容の諸相を明らかにしようとするものである。

中国の宋・元時代の美術の移入は鎌倉時代以降の日本の美術に多大な影響を及ぼしたと理解されている。しかし、その際にしばしば用いられる「宋風」というタームはその語の示す意味や度合いが彫刻や絵画といったジャンルや地域によって一定ではない。

鎌倉は幕府により港が開かれ、夥しい大陸の文物がもたらされ、来日した中国僧たちによって禅宗寺院には大陸文化が直に伝えられた。また初期には仏師や絵師が鎌倉に赴いて制作するなどして中央の美術が導入された経緯もあり、それに対して鎌倉で制作された美術に関しては「地方作」という形容もしばしば行われてきた。「地方作」という場合、単純に都以外の地域で制作されたものであるという以外に、「中央の作風とはやや距離のある」「洗練されていない」「田舎様式」という意味合いも少なからず含んでいる。また、「地方作」≠「宋風」であるが、「鎌倉地方作」≡「宋風」に近い語りの構図があり、鎌倉を中心とした東国の美術が語られる際には「宋風」と「地方作」というタームが曖昧なままに共存している。本研究では具体的な作品研究を進めることで「地方作」「宋風」といった美術史のタームが示す範囲、また宋・元画受容の地域的な差異や指向性について明らかにすることを目指した。

## 3. 研究の方法

- ① 鎌倉幕府が開かれてから、鎌倉府が古河に移転するまでの期間に鎌倉文化圏において制作され、流通し、受容された絵画のデータベースを作成。その際、現存作例のほか、文献史料などからもデータを採録した。
- ② 称名寺にのこる金沢北条氏の書状など唐物関係史料から、交易によりもたらされた舶載画についての評価、価値観を探った。
- ③ 先行研究において東国様式が認められてきた作例について、その様式的特徴を整理した。基礎的作業として既存の写真資料等から問

題点を明らかにした後、必要に応じて作品調査を行った。

## 4. 研究成果

鎌倉幕府が開かれてから、鎌倉府が古河に移転するまでの期間に鎌倉文化圏において制作され、流通し、受容された絵画の情報を収集。称名寺所蔵唐物関係史料などの文献史料についてもデータを採録した。鎌倉地方の寺院所蔵品などを中心に作品調査を行った。

- ① 作品調査の成果を反映させた関連作品のデータベースを作成。
- ② 本研究に関連する諸作例について作品調査を行った。
- ③ 文献史料を中心に東国における絵画制作、流通に関する記事を収集した。
- ④ 中世の鎌倉文化圏において制作された縁起絵巻や掛幅縁起を主たるテーマとした展覧会(2013年秋予定)の準備を進めた。
- ⑤ 宝生寺(横浜市)所蔵絵画の調査、研究を行った。宝生寺所蔵の絵画には鎌倉から室町時代に制作された東国様式を示す仏画が多く伝存している。そのうち、涅槃図と羅漢図を中心に作品調査、研究を行った。成果の一部は所属機関の展覧会「涅槃図」の解説や論文(梅沢恵「宝生寺所蔵の二種の羅漢図について」『神奈川県立博物館研究報告』38)等で発表した。
- ⑥ 鎌倉・円覚寺所蔵の五百羅漢図についての研究会を行った(継続中)。本作品は三十三幅が中国・元時代、十六幅が室町時代、一幅が江戸時代の補作からなり、鎌倉における外来文化の受容、作品の移動の問題を考える上で重要な作例である。各幅の画題についての検討を行い、画面に描かれている器物や人物の表現について詳しい注記を施す作業を進めている。
- ⑦ 羅漢図の特徴としてあげられる「生身」的な表現や実在する人物像を羅漢図に描き込む慣習が日本においてどのように理解されていたのかを考察した。(梅沢恵「羅漢図における「生身」性とその受容」『アジア遊学』122号、2009)
- ⑧ 東国における密教図像の伝播を日蓮自筆の図像の典拠を例に論じた。(梅沢恵「日蓮筆『不動愛染感見記』について」『鎌倉の日蓮聖人』(展覧会図録)神奈川県立歴史博物館、2009)
- ⑨ 光明寺(相模原市)所蔵の夢窓疎石像の調査研究を行った。画中には元時代の月江正印の賛があり、構図は妙智院本に倣う半身像であるが、金欄の袈裟を着す点などは円覚寺黄梅院本、鹿王院本などと近い。天龍寺に伝来する天龍開山供養の際の金欄袈裟を着した頂相が京都で制作され、鎌倉地方にもたらされたことがわかる事例として貴重である。成果の一部は特別陳列

「夢窓疎石と鎌倉の禅宗文化」（2012年9月）の展示図録等で報告予定である。

- ⑩ 嘉元三年（1305）の年記を有する鎌倉・光明寺所蔵の「浄土五祖絵伝」をはじめ、1300年前後に鎌倉地方で制作されたと考えられる鎌倉派絵巻を中心に東国の縁起絵の基礎的データを収集した。2013年度に開催を予定している特別展「東国の縁起絵（仮称）」にて研究成果を報告する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ① 梅沢恵「宝生寺所蔵の二種の羅漢図について」『神奈川県立博物館研究報告（人文科学）』査読無、38、2012年3月、pp. 89-96
- ② 梅沢恵「春日におけるイメージの変相 山の端の円相をめぐって」『春日の風景 麗しき聖地のイメージ』（展覧会図録）、根津美術館、査読無、2011年10月、pp. 112-118
- ③ 梅沢恵「円覚寺所蔵五百羅漢図に関する研究一画中に描かれた人物像を中心に」『鹿島美術財団年報』査読無、27、鹿島美術財団、2010年11月、pp. 474-482
- ④ 梅沢恵「毘沙門天と有翼鬼神」『天狗推参!』（展覧会図録）、神奈川県立歴史博物館、査読無、2010年9月、pp. 122-125
- ⑤ 梅沢恵「『不動愛染感見記』について」『鎌倉の日蓮聖人』（展覧会図録）、神奈川県立歴史博物館、査読無、2009年10月、pp. 154-157
- ⑥ 梅沢恵「羅漢図における『生身』性とその受容」『アジア遊学』、査読無、122、2009年5月、pp. 81-89

〔学会発表〕（計1件）

梅沢恵「中世日本における特殊な毘沙門天図像の受容と辟邪絵の制作について」

On the Reception of Special Bishamon

Iconography and the Creation of “Pictures of the Extermination of Evil” in Medieval Japan

国際シンポジウム「中世日本の信仰と造形 II」

Beliefs, Rituals, Stories and Art in Medieval Japan II

An international workshop

科学研究費基盤研究（A）「大画面説話画の総合研究」（研究代表：佐野みどり）

於：ハーバード大学・ハーバード大学美術館・ボストン美術館

〔図書〕（計1件）

- ① 安村敏信、山下裕二、内田啓一、矢島新、鈴木泉、佐々木英里子、梅沢恵、小学館、『狩野一信 五百羅漢図』、2011年3月、解説篇、pp. 22-25, pp. 44-50

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

梅沢 恵 (UMEZAWA MEGUMI)

神奈川県立歴史博物館・学芸員

研究者番号：60415966